

秋田大学の基本理念・基本的目標

基本理念

1. 國際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、DX推進に必要な素養を身に付け、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。
2. 研究においては、ICTを進化させて地域から地球規模に至る社会課題の解決に挑み、DXを推進するイノベーションを創出し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取り組みを推進するとともに、ICTを活用した医療体系の充実を図り、地域医療の格差をなくすことに貢献する。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、情報工学を活用したスマート・マイニング（情報工学を積極的に取り入れた“これから”の資源情報学）を実践するため、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指すとともに、学生及び教職員がSociety 5.0を構築するメンバーとして活躍できるよう環境を整備する。

秋田大学医学部の理念・目標

医学部の理念	豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観及び、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する充分な理解をもとに、人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感にあふれる人材を育成する。
医学科の目標	<ol style="list-style-type: none">1. 教育 豊かな感性、高い教養、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけ、人間に対する深い理解と愛情を持ち、医学・医療の発展のために必要な意欲と能力を持つ人材を育成する。2. 研究 国際的に高く評価される独創性の高い医学研究を推進し、特色ある研究拠点を形成する。3. 医療 特色ある先進医療を推進するとともに、地域社会において期待される医療・福祉の充実に貢献する。
保健学科の目標	<ol style="list-style-type: none">1. 教育 豊かな感性、高い教養と倫理性、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけ、国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者、並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成する。2. 研究 教育の礎となり、健康科学に広く関わる知識と技術の発展に資する研究を目指し、社会に貢献する。

『卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）』【医学科】

医学部医学科では、所定の期間在学し、医学部医学科が定める専門分野に関する所定の単位を全て修得し、次のような知識、技能、態度等をみにつけた学生に、「学士（医学）」の学位を授与します。

1. 豊かな教養と倫理性：豊かな人間性を有し、医師としての職責への十分な自覚のもと、生命倫理や医の倫理を遵守し、行動する能力
2. コミュニケーション能力：チーム医療の一員として協調して行動し、人々と良好な関係を構築する能力
3. 適応能力：ICT 等も活用し、絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる能力
4. 課題探求・問題解決能力：自ら国内の地域医療や国際的な健康課題を探求し、医学情報を積極的に収集して倫理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決する能力
5. 基礎医学能力：個体の仕組みと外界への反応を理解し、基礎的な病因や病態を理解する能力
6. 社会医学能力：地域医療を含めた社会と医学・医療の関連性を理解する能力
7. 基本的臨床能力：患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解する基本的な臨床能力
8. 実践的臨床能力：基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決する能力

医学部医学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学部医学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。

（教育課程編成方針）

1. 豊かな教養と倫理性：豊かな人間性を有し、医師としての職責への十分な自覚のもと、生命倫理や医の倫理を遵守し、行動する能力を修得するカリキュラムを構成する。
2. コミュニケーション能力：チーム医療の一員として強調して行動し、人々と良好な関係を構築する能力を修得するカリキュラムを構成する。
3. 適応能力：ICT等も活用し、絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる能力を拾得するカリキュラムを構成する。
4. 課題探求・問題解決能力：自ら国内の地域医療や国際的な健康問題を探求し、医学情報を積極的に収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決する能力を修得するカリキュラムを構成する。
5. 基礎医学能力：個体の仕組みと外界への反応を理解し、基礎的な病因や病態を理解する能力を修得するカリキュラムを構成する。
6. 社会医学能力：地域医療を含めた社会と医学・医療の関連性を理解する能力を修得するカリキュラムを構成する。
7. 基本的臨床能力：患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解する基本的な臨床能力を修得するカリキュラムを構成する。
8. 実践的臨床能力：基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決する能力を修得するカリキュラムを構成する。

(学修方法・学修課程)

1年次には、幅広い教養と医学を学ぶ前段階の科学の知識を身につけることを目的として、教養基礎教育科目を履修する。また、人体の構造・機能の基礎を身につけるため基礎医学の知識や技能を修得するとともに、医療・社会・行動科学を履修する。

2年次には、人体の構造・機能を詳細に学び、疾病の原因・病態・治療に関連する基礎医学の知識や技能を修得するとともに、医療・社会・行動科学を履修する。また、興味のある基礎医学を選択的に学ぶ事を目的として基礎医学アドバンストコースを履修する。

3年次から4年次前半には、臓器別・器官別に全ての診療科の臨床医学を学ぶとともに、社会医学の知識や技能を修得する。また、3年次前半には基礎医学講座・社会医学講座等に配属されて研究・実務活動に触れる研究配属、4年次前半には興味のある臨床医学を選択的に学ぶことを目的として臨床医学アドバンストコースを履修する。

4年次後半から5年次前半には、医学部附属病院等の医療現場で全ての診療科の実践的な診療能力を修得する診療参加型臨床実習を履修する。この間、症例ベースの演習、医師国家試験に向けた対策、医療・社会・行動科学の演習をする目的で、医学医療総合講義を履修する。

5年次後半から6年次前半には、医学部附属病院および県内地域医療機関等（国際交流医療機関を含む）の医療現場で、学生の希望・選択を考慮した診療参加型臨床実習を履修する。

6年次後半には、従来から学んできた臨床医学の知識・技能を再確認し、「学士（医学）」の学位を授与するに相応しい学生であるか否かの評価を受けるためにOSCE（客観的臨床能力試験）を含む卒業試験を受けるとともに、医師国家試験に備えた準備をする。

医学科では、学生が卒業時に達成すべき能力として、以下の6つのコンピテンスを定めている。

1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション能力
3. 医学各分野及び関連領域の知識と応用力
4. 実践的臨床能力
5. リサーチマインド・問題解決能力
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力

各コンピテンスには、それぞれ具体的な到達目標がコンピテンシーとして設定され、合計32項目のコンピテンシーから成る。（別表1）。個々のコンピテンシーは6年間のうちの特定の時期において達成されるのではなく、各学年で履修する科目ごとに定められたレベルをクリアしながら徐々に能力が向上し、卒業時には全ての学生が「卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル」に到達できるよう、カリキュラムが構築されている。

別表1 秋田大学医学部医学科のコンピテンスとコンピテンシー

コンピテンス	コンピテンシー
1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム	卒業生は豊かな教養とプロフェッショナリズム(信頼、誠実、思いやり、省察、倫理)を有し、常に以下を自覚した行動ができる。 1) 医の倫理と医師の職責 2) 患者中心の医療
2. コミュニケーション能力	卒業生は以下に配慮しつつ、チーム医療の一員として協調し、人々と良好な関係を構築できる。 1) 倾聴、共感、思いやりの気持ちをもった誠実な対応 2) 総合的な判断に結びつく多様な背景や価値観の理解 3) 言語表現・非言語表現による相互の信頼関係の構築 4) 正確な説明・プレゼンテーション 5) 診療チームの一員としての信頼・協調 6) 多職種連携とリーダーシップ 7) 困難な状況下における患者・家族・医療者とのコミュニケーション 8) 國際的なコミュニケーション力
3. 医学各分野及び関連領域の知識とその応用力	卒業生は以下の基礎・社会・臨床医学及び医療行動科学に関する知識を修得し、ICTを適切に活用して実践に応用できる。 1) 各臓器の正常な構造と機能 2) 病態生理・構造と機能の異常 3) 診断・治療 (EBM・統計) 4) 疫学・予防 5) 医療安全・医療倫理 6) 医療行動勵学 7) 医療行政・経済 (保健・医療・福祉制度、医療のグローバル化)
4. 実践的臨床能力	卒業生は以下の基本的な臨床能力を修得して、具体的な臨床的問題を解決できる。 1) 適切な医療面接及び臨床推論 2) 身体診察・検査計画 3) 治療方針の策定 4) EBMを適切に活用した総合的な判断に基づく Informed Consent、Shared Decision Making 5) 診療記録の記載とプレゼンテーション 6) 基本的な診療手技の実践 7) チーム医療 8) 地域医療・地域包括ケアの理解
5. リサーチマインド・問題解決能力	卒業生は以下を通じて、日々の診療や国内・外の医学的課題を探求し医学情報を適切に収集して論理的に思考する。あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決することができる。 1) 医学的課題の発見と探求 2) 科学的理論と方法論の理解と実践 3) 医学情報の解析と活用 4) 新知見の発信 5) 國際的視野
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力	卒業生は以下を通じて、常に省察することで生じる課題解決のために、絶えず進歩する医学・医療を学習し、個々や各チームの質を継続的に向上することができる。 1) 自己研鑽・生涯学習の維持 2) 医学・医療教育の連鎖による継続的なチーム医療の質向上

医学部医学科 学修成果の評価の指針（アセスメント・ポリシー）

医学部医学科は、以下の指針をもとに、学生が修得した知識、技能並びに態度を多面的に評価するとともに、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに則して、カリキュラムや教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法等によって実行されているかを検証します。

1. 評価の内容

講義科目や演習科目では、知識とその応用力を評価します。実験・実習科目では、技能、態度、コミュニケーション能力等についても評価します。

2. 評価の方法および評価の基準について

知識とその応用力については筆答、口頭、レポート提出および実地試問等により、技能は実技試験により、どちらも原則として、数値化して達成度を評価します。その他の能力は実習現場評価で可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を評価します。また、総括的評価の評点については医学部医学科試験内規により、試験の成績は、100点を満点とし、60点以上を合格とします。

3. Grade Point Average (GPA)

GPAによる成績評価方法を導入し、学生個人および科目の達成度の評価に利用します。

4. 科目合否判定や進級あるいは卒業時の判定に用いる試験に加え、到達目標に至る道程を明らかにするため、形成的評価を隨時行います。

5. 再試験および追試験

定期試験で、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行うことがあります。また定期試験を何らかの正当な事由で受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります。

6. 出席条件

科目履修は出席することが前提ですので、出席状況は評価の対象にはなりません（出席点はありません）。また、技能習得に全ての課題を修めることを条件とする科目においては、原則として欠席は認められません。

7. 情報の開示

科目および試験について個々の成績評価について、学生からの照会に応じる体制を整備します。また、進級・卒業の要件の詳細は別に定めて明示します。なお、試験の合否は期日を定めて学生に通知します。

8. 点検と改善

評価方法の選定と基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、学務委員会にて定期的に見直しを行います。

医学科のカリキュラムについて

学務委員長

はじめに

秋田大学医学部医学科では2002年度から“医学教育モデル・コア・カリキュラム”（以下、“コアカリ”と略す）に基づいた教育が行なわれている。コアカリは医学教育の共通化を図るために全国の医学部が中心となって作成されたもので、2022年に最新の改訂がなされ文部科学省より公開されている。このコアカリをベースに本学独自の科目を加えることで、秋田大学医学部医学科の教育目的に応じたカリキュラムを構築している。

医学教育においては、卒業時にどれだけの能力を備えた医学生を育て上げるかが重要視されており、**到達目標（アウトカム）**を明確に定めることが求められている。本学では、卒業時に備えておくべき能力を**コンピテンス及びコンピテンシー***（知識・技術・態度を包括した実践的な能力）として定め、6年間で確実に達成できるように、全ての科目についてコンピテンシーからみた役割を明確化し、学年ごとのマイルストーンを明示することとした。このシラバスに記載された内容を十分に理解して積極的に学習に励んでいただきたい。

* コンピテンス (competence) とコンピテンシー (competency) は共に「知識・技術・態度を包括した実践的な能力」を指しているが、コンピテンスは主要能力（キー・コンピテンシー）ともいい、全体を包括した能力を指し、コンピテンシーはそれらを構成する下記項目と定義される。表1参照。

医学科カリキュラムの特徴

秋田大学医学部医学科では、学生が卒業時に達成すべき能力として、以下の6つのコンピテンスを定めている。

1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション能力
3. 医学各分野及び関連領域の知識と応用力
4. 実践的臨床能力
5. リサーチマインド・問題解決能力
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力

各コンピテンスには、それぞれ具体的な到達目標がコンピテンシーとして設定され、合計32項目のコンピテンシーから成る（表1）。個々のコンピテンシーは6年間のうちの特定の時期において達成されるのではなく、各学年で履修する科目ごとに定められたレベルをクリアしながら徐々に能力が向上し、卒業時には全ての学生が「卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル」に到達できるよう、カリキュラムが構築されている（コンピテンシー基盤型カリキュラム）。

コンピテンス	コンピテンシー
1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム	卒業生は豊かな教養とプロフェッショナリズム(信頼、誠実、思いやり、省察、倫理)を有し、常に以下を自覚した行動ができる。 1) 医の倫理と医師の職責 2) 患者中心の医療
2. コミュニケーション能力	卒業生は以下に配慮しつつ、チーム医療の一員として協調し、人々と良好な関係を構築できる。 1) 倾聴、共感、思いやりの気持ちをもった誠実な対応 2) 総合的な判断に結びつく多様な背景や価値観の理解 3) 言語表現・非言語表現による相互の信頼関係の構築 4) 正確な説明・プレゼンテーション 5) 診療チームの一員としての信頼・協調 6) 多職種連携とリーダーシップ 7) 困難な状況下における患者・家族・医療者とのコミュニケーション 8) 國際的なコミュニケーション力
3. 医学各分野及び関連領域の知識とその応用力	卒業生は以下の基礎・社会・臨床医学及び医療行動科学に関する知識を修得し、ICTを適切に活用して実践に応用できる。 1) 各臓器の正常な構造と機能 2) 病態生理・構造と機能の異常 3) 診断・治療 (EBM・統計) 4) 疫学・予防 5) 医療安全・医療倫理 6) 医療行動科学 7) 医療行政・経済 (保健・医療・福祉制度、医療のグローバル化)
4. 実践的臨床能力	卒業生は以下の基本的な臨床能力を修得して、具体的な臨床の問題を解決できる。 1) 適切な医療面接及び臨床推論 2) 身体診察・検査計画 3) 治療方針の策定 4) EBMを適切に活用した総合的な判断に基づく Informed Consent、Shared Decision Making 5) 診療記録の記載とプレゼンテーション 6) 基本的な診療手技の実践 7) チーム医療 8) 地域医療・地域包括ケアの理解
5. リサーチマインド・問題解決能力	卒業生は以下を通じて、日々の診療や国内・外の医学的課題を探求し医学情報を適切に収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究することで問題を解決することができる。 1) 医学的課題の発見と探求 2) 科学的理論と方法論の理解と実践 3) 医学情報の解析と活用 4) 新知見の発信 5) 國際的視野
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力	卒業生は以下を通じて、常に省察することで生じる課題解決のために、絶えず進歩する医学・医療を学習し、個々や各チームの質を継続的に向上することができる。 1) 自己研鑽・生涯学習の継続 2) 医学・医療教育の連鎖による継続的なチーム医療の質向上

表1 秋田大学医学部医学科のコンピテンスとコンピテンシー

本学のカリキュラムは、4年次半ばまでの「臨床実習前教育」とそれ以降の「診療参加型臨床実習」に大きく分けられる（図1）。前者においては、教養基礎科目、基礎・社会・臨床医学科目が中心となり、それぞれの領域だけでなく他分野も合わせて、医学・医療全体を統合して理解できるように講義、演習及び実習内容が工夫されている。例えば、解剖学の講義や実習中に、観察している臓器や器官の働きやそれらを構成する分子やコードする遺伝子について、他の基礎医学分野と連携する（水平統合）、病気・病態との関連を臨床的な観点から学ぶ（垂直統合）ことで、理解を深めることができる。

後半の「診療参加型臨床実習」は2期に分けられ、それぞれ CC1 (Clinical Clerkship 1)、CC2 (Clinical Clerkship 2) と呼んでいる。CC1 は初めて実際の医療現場で医療チームの一員として診療に参加する実習で、附属病院の全ての診療科を1~2週ず

つローテートしながら約1年間かけて実習する。CC2はより研修医に近い形で実際の診療チームの一員としての自覚と責任を持って行動する実習で、多くの秋田県内医療機関にご協力いただき、附属病院各診療科あるいは秋田県内医療機関に、1~6名の少人数で1期4~5週と比較的長く実習に参加することが特徴である。

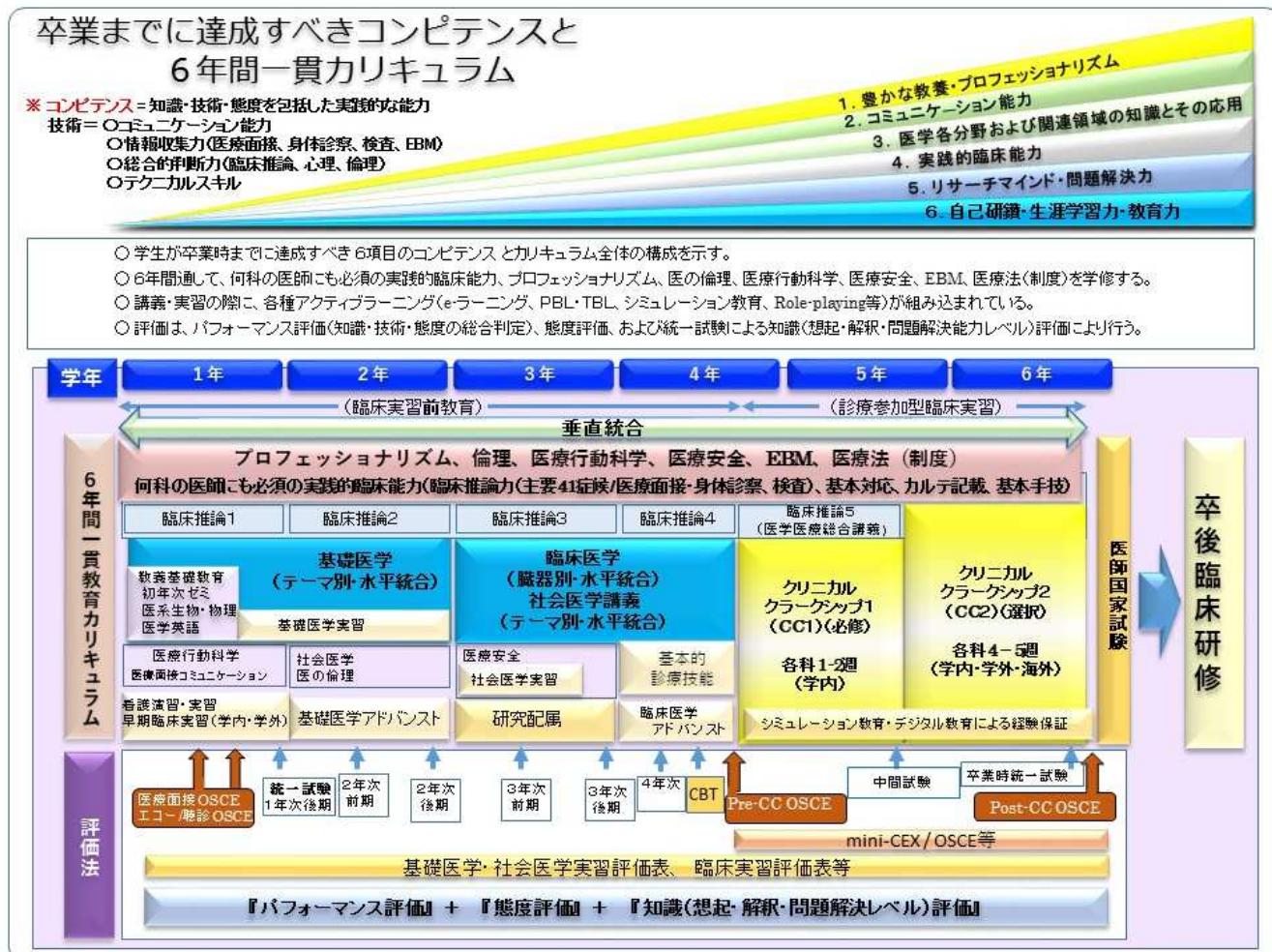


図1 コンピテンスと6年間の医学教育

科目ごとのコンピテンシーレベル

各学年で学ぶ科目について、その科目を履修することで各コンピテンス及びコンピテンシーのどのレベルに達し得るかは科目により異なる。表1に秋田大学医学部医学科のコンピテンス及びコンピテンシーを示す。冒頭で述べたように、6つのコンピテンスに合計32項目のコンピテンシーが定められている。科目によっては、あるコンピテンシーについては修得の機会が得られない場合もあれば、逆にその科目を履修することでかなりのレベルに達し得るコンピテンシーもある。コンピテンシー・レベルは、以下の6段階(A~F)に分けられる。

- A. 臨床現場で、おおむね実践できる評価を得ることができる（卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル）
- B. 模擬的に実践でき、臨床現場で単独で実践を始めるレベルの評価を得ることができる（診療参加型臨床実習の開始時点に期待されるレベル）
- C. 指導者のもと模擬的に実践できる
- D. 基本を理解して説明することができる
- E. 基本となる知識を示すことができる
- F. 修得の機会がない

卒業までには全ての領域のコンピテンシーがレベルAに到達するように、カリキュラムが構成されている。医学生は6年間で合計85科目（1年次19科目、2年次20科目、3年次25科目、4年次17科目、5年次3科目、6年次1科目）を履修する。それら全科目について、32項目のコンピテンシーレベルが一つ一つ定められている（別掲「令和7年度 秋田大学医学部医学科 コンピテンス及びコンピテンシーレベル表」）。

コンピテンシー到達度の評価

科目ごとに定められたコンピテンシーレベルに基づいて、到達度を測るために多くの評価法を導入している。主に、以下の 3 つの評価法で構成される（図 2 参照）。

- 1) パフォーマンス評価：主に、医師・研究者としての技能を測る評価法。詳細は後述する。
- 2) 態度評価：医学生として適切な態度がなされているかを測る評価法。各科目で行われる実習や演習において行われる。
- 3) 知識（想起・解釈・問題解決能力）評価：各種試験が該当する。特に、医学科独自の統一試験は、当該期間に履修した全ての科目の問題を統合して出題し、進級の主要な判定基準となっている。

医学教育における特徴的なパフォーマンス評価の例として、客観的臨床能力評価（Objective Structured Clinical Examination、OSCE）が挙げられる。本学では、医療系大学間共用試験実施評価機構（Common Achievement Tests Organization、CATO）による 4 年次 OSCE のほか、1 年次に臨床推論・医療面接 OSCE（日本語・英語）及び肺の聴診・心エコー・腹部エコー OSCE を行なっており、パフォーマンス評価とともに医学生の動機付けとしても効果を上げている。また、本学では全国の医学部に先駆け 2001 年度から 6 年次 OSCE を卒業要件として取り入れており、2020 年度から CATO により正式実施となった臨床実習後 OSCE（Post-CC OSCE）へ引き継がれている。この試験では、CATO から出題される 3 題に加えて、本学独自の 13 題を出題する予定としており、これら実技試験に合格することを卒業の必須要件としている。

コンピテンス達成度を評価するための方法と基準



図2 医学科の学生評価方法と合否判定基準概要

6年間を通じて各分野連携して継続的に教育する 「全ての医師に必要な重要事項」

プロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療法(制度)、

医学科で学ぶ基礎・社会・臨床医学講義及び実習には、プロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療法(制度)、に関する内容が含まれており、6年間を通じて各分野・科目の観点から継続的に学修することで、コンピテンス・レベルを段階的に上げていくことができる。

医師の「プロフェッショナリズム」とは

豊かな教養と人間性を有し、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚して行動でき、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに患者の安全と心身の健康を最優先し、常に患者中心の立場で行動できる態度を指す。

医師に必要な「倫理」とは

「医の倫理及び生命倫理」に関する知識とそれに基づいた態度、及び「患者中心の視点」から成る。
前者には、医の倫理の歴史的背景、臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題、ヒボクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師の職業倫理指針、医師憲章等医療の倫理に関する規範を理解し、行動する姿勢が含まれる。後者には、里斯ボン宣言等に示された患者の基本的権利、患者の自己決定権、及びインフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの理解と、患者の自己決定を支援する態度が含まれる。

医療行動科学とは

人間の個人行動や社会行動、あるいは人間の心の働きである知・情・意に焦点をあて、人間を全人的に理解しようとする学問体系を「行動科学」といい、これを医学・医療の分野で活用し、医療人としてあるべき態度・行動を学修する科目を指す。
人の行動の成り立ち、動機付け、ストレス、こころの発達、パーソナリティ、対人関係と対人コミュニケーション、行動変容における理論と技法、等が含まれる。

医学科で学ぶ「医療安全」とは

患者及び医療者にとって良質で安全な医療を提供するために必要な知識・考え方・態度を指す。以下の項目が含まれる。

1. 患者の安全性確保のための基本的考え方と方策
2. 医療上の事故等への対処と予防法
3. 医療従事者の健康と安全

EBM (Evidence-Based Medicine)とは

科学的根拠、すなわちエビデンスに基づいた医療を指す。様々な科学的検証法が進んだ現代においては、EBMを考慮深く活用することが求められている。医学科6年間を通じて、入手可能な最善の医学知見を用い、臨床現場において適切な意思決定を行うための方法を身につける。具体的には、EBMの5つのステップ、エビデンスの収集法、得られた情報に対する批判的吟味、診療ガイドラインの理解・活用法等が含まれる。

医師が関わる医療法(制度)とは

医師には、多くの義務(届出を含む)、努力義務、権限が法的に規定されているほか、医行為や医療の提供には数多くの法的手続きが含まれている。医学生にとって、その内容を詳細に知っておく必要がある法令については、履修科目の中で取り上げ、他の法令についても必要に応じて学修する。

何科の医師にも必須の臨床実践力 ～総合的な臨床能力の修得(主要41症候の臨床推論+基本対応)～

モデル・コア・カリキュラムに定められた37症候に加え、本学独自の項目を加えた下記41症候を、医師として最低限知っておくべき主要症候と定め、6年間を通じて医療面接・身体診察からはじまる臨床推論と基本的対応を学ぶ。

主要41症候

頭痛、胸痛、腹痛、背部痛、腰痛、呼吸困難、咳・痰、血痰、喀血、動悸、めまい、失神、意識障害、痙攣、運動麻痺・筋力低下、しづれ、構語障害、視力障害、複視、不隨運動・振戦、ショック、発熱、全身倦怠感、貧血、リンパ節腫脹、関節痛・関節腫脹、悪心・嘔吐・食欲不振、嚥下障害、体重減少・体重増加、発疹、胸水、浮腫、尿量・排尿の異常、血尿・タンパク尿、黄疸、吐血・下血、便秘・下痢、腹部膨隆(含・腹水)・腫瘍、月経異常、不安・抑うつ、せん妄、物忘れ・認知能の障害、外傷・熱傷

おわりに

「**多様なニーズに対応できる医師の養成**」はコアカリの目標の一つである。国際的な公衆衛生や医療制度の変遷を鑑み、国民から求められる倫理観、医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を有する医師が社会から必要とされている。本学の医学教育カリキュラムは「**多様なニーズに対応できる医師の養成**」に沿った内容になっていることが理解できると思う。本学では、医学生が無理なく効果的に学習できる医学教育カリキュラムにすべく日々努力しているが、実際に教育を受ける側の医学生からの意見も可能な限り取り入れている。学生が本学のカリキュラムに沿って学習する中で、改善した方が良い点、何か気づいた点など意見があれば、いつでも積極的に教員、学務に声をかけていただきたい。6年間の本学のカリキュラムを通して身につけた6つのコンピテンスに示される実践的な能力を元に生涯にわたって学ぶ姿勢を継続し、それぞれの分野で優れた医師・医学者として活躍されることを期待する。

第1層 - 説明	第2層 - 説明	第3層 - 説明	第4層 - 説明	第4層 - 説明	すにへ実秋 る身講習田 項目に義等大 目つやを学 け実過医学 て習じ学 も等て部 らを體全 う達成体 べじすで くてる講 意学項義 識生目・ すにへ実 		目つやを基 け実過確 て習じ系 も等ての らを體講 う達成座 べじすで くてる講 意学項義 識生目・ すにへ実 る身講習 項に義等		形態 解析・ 器官構造学																								
					すにへ実秋 る身講習田 項目に義等大 目つやを学 け実過医学 て習じ学 も等て部 らを體全 う達成体 べじすで くてる講 意学項義 識生目・ すにへ実 	目つやを確 て習じ系 も等ての らを體講 う達成座 べじすで くてる講 意学項義 識生目・ すにへ実 る身講習 項に義等																											
専 門 知 識 に 基 づ い た 問 題 解 決 能 力	基礎 医 学	分子レベルから個 体レベルまでの、 生命現象、細胞か ら個体の構成と機 能、個体の反応を 理解し、その破綻 による病因と病態 を理解する。	個体の反応	PS-01-03-25	抗原提示細胞の種類と役割、抗原提示機構について理解している。				○	○		○	○		○																		
				PS-01-03-26	ウイルス、細菌、真菌と寄生虫に対する免疫応答の特徴の概要について理解している。				○			○	○		○																		○
				PS-01-03-27	原発性免疫不全症候群と後天性免疫不全症候群の概要について理解している。									○																			
				PS-01-03-28	免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症について理解している。				○					○																			
				PS-01-03-29	アレルギー発症の機序について理解している。				○					○																			
				PS-01-03-30	がん免疫に関わる細胞性機序について理解している。				○	○				○	△																		
				PS-01-03-31	生体（あるいは生体群）の薬物・毒物反応性について、用量反応曲線を理解している。				○		○																						○
				PS-01-03-32	薬物の受容体結合・薬理作用の関連性及び作動薬・拮抗薬について理解している。				○		○																						○
				PS-01-03-33	薬物の有害作用、薬物間相互作用について概要を理解している。						○																						○
			病因と病態	PS-01-04-01	ゲノムの多様性に基づく個体の多様性について理解している。						○																						○
				PS-01-04-02	単一遺伝子疾患、染色体異常による疾患、ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げ、遺伝様式を含め理解している。					○	○			○																			○
				PS-01-04-03	多因子疾患における遺伝要因と環境要因の関係について理解している。						○																						○
				PS-01-04-04	薬剤の有効性や安全性とゲノムの多様性との関係について概要を理解している。						○																						○
				PS-01-04-05	ネクローシスとアボトーシスの違いを含め、細胞傷害・変性と細胞死の多様性、病因と意義について理解している。					○	○			○	○																		○
				PS-01-04-06	細胞傷害・変性と細胞死の細胞と組織の形態の変化の特徴について理解している。						○	○																					○
				PS-01-04-07	糖代謝異常の病態について理解している。						○				○																		○
				PS-01-04-08	タンパク質・アミノ酸代謝異常の病態について理解している。						○				○	○																	○
				PS-01-04-09	脂質代謝異常の病態について理解している。						○				○	○																	○
				PS-01-04-10	核酸・ヌクレオチド代謝異常の病態について理解している。						○				○	○																	△
				PS-01-04-11	ビタミン、微量元素の代謝異常の病態について理解している。						○				○	○		○														○	
				PS-01-04-12	メタボリックシンドロームの病態について概要を理解している。						○				○	○		○															○
				PS-01-04-13	血行障害（阻血、低酸素血、充血、うっ血、出血）の違いとそれぞれの病因と病態、梗塞（血栓、塞栓）の種類と病態について理解している。						○	○			○			○															○
				PS-01-04-14	血圧異常（高血圧、低血圧）について理解している。						○	○	○		○			○															○
				PS-01-04-15	炎症の定義について理解している。							○	○			○			○														○
				PS-01-04-16	炎症の分類、組織形態学的変化と経時的变化（局所的変化と全身的変化）について理解している。							○	○																				○
				PS-01-04-17	炎症組織の治癒過程について理解している。							○	○																				○
				PS-01-04-18	炎症とメタボリックシンドローム、動脈硬化、腫瘍、老化への関わりについて理解している。							○	○				○																○
				PS-01-04-19	自律性の増殖、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて理解している。							○	○																				○
				PS-01-04-20	がんの原因や遺伝子変化について概要を理解している。							○	○			○																	○
				PS-01-04-21	用語（異形成、上皮内癌、進行癌、早期癌、異型性、多形性等）について理解している。							○	○							○													○
				PS-01-04-22	がんの病理診断と治療の関わりについて概要を理解している。							○	○							○													○
				PS-01-04-23	がんの転移について概要を理解している。							○	○			○			○														○
				PS-01-04-24	がんの免疫系による排除機構について概要を理解している。							○	○			○			○	△	○											○</	

第1層 -話	第2層 -説明	第3層 -話	第4層 -話	すにへ実秋 る身講習田 項目義等大 目つやを學 け実進医 て皆じ學 も等て部 らを離全 う進成体 べじすで くる講 習学項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	目つやを離 け実進床 て皆じ系 も等ての らを離講 う進成座 べじすで くる講 習学項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	目つやを離 け実進床 て皆じ系 も等ての らを離講 う進成座 べじすで くる講 習学項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	リハビリテーション部																							
							病理部	薬物動態学	医療安全管理部	感染制御部																				
専門知識に基づいた問題解決能力	全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療	器官横断的で全身に及ぶ生理的变化を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。	感染症	PS-03-03-01	代表的な市中感染症の原因微生物について理解している。		○																							○
				PS-03-03-02	代表的な医療関連感染の原因微生物について理解している。		○																							○
				PS-03-03-03	代表的な免疫不全患者の罹患しやすい微生物について概要を理解している。		○																							○
				PS-03-03-04	薬剤耐性の現状、代表的な薬剤耐性菌（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌等）と抗菌薬適正使用等の予防策について理解している。			○																					○	
				PS-03-03-05	患者（宿主）、感染臓器・部位、原因微生物の関係について理解している。		○																							○
				PS-03-03-06	代表的な市中感染症のリスク因子、感染経路・侵入門戸、病態生理について理解している。		○																							○
				PS-03-03-07	代表的な医療関連感染のリスク因子、感染経路・侵入門戸、病態生理を理解している。		○																							○
				PS-03-03-08	敗血症と血流感染の相違を理解し、病態について理解している。		○																							○
				PS-03-03-09	新興感染症等についてその感染経路を理解し、必要な感染対策を理解している。		○																							○
				PS-03-03-10	医療面接と身体所見から感染臓器と原因微生物を想定し理解している。																								△	
				PS-03-03-11	医療面接と身体診察から想定した原因微生物の診断方法について理解している。																								○	
				PS-03-03-12	発熱患者への基本検査（血液培養2セット、尿検査・尿培養、胸部エックス線写真等）について理解している。																								○	
				PS-03-03-13	抗菌薬投与の原則（抗菌薬投与前に培養検体を提出する、微生物と臓器による標準薬を選択し投与期間を設定する）について理解している。			○																					○	
				PS-03-03-14	抗菌薬の初期治療（経験的治療）について理解している。				○																					○
				PS-03-03-15	抗菌薬の最適治療（標的治療）について理解している。				○																				○	
				PS-03-03-16	ワクチン予防可能な疾患について理解している(表1)。					○																			○	
				PS-03-03-17	職業感染対策（ワクチン接種、針刺創切・液体曝露、結核曝露等）について理解している。			○																					○	
				PS-03-03-18	標準予防策（スタンダード・ブリッコーション）、感染経路別予防策（飛沫感染予防策、接触感染予防策、空気感染予防策等）が必要となる病原微生物、患者から医療従事者への病原微生物曝露を防ぐための個人防護具、予防接種等、医療従事者の液体曝露後の感染予防策について理解している。					○																		○		
				PS-03-04-01	腫瘍の定義とその特性について、ゲノム異常や分子機構（エピゲノム修飾を含む）とともに理解している。				○	○																		○	○	○
				PS-03-04-02	我が国及び世界における各種腫瘍の頻度等について理解している。				○	○																		○	○	○
				PS-03-04-03	腫瘍性疾患症の遺伝的素因・基礎疾患・感染症・環境生活習慣等のリスク因子、腫瘍の予防・検診について理解している。				○	○																		○	○	○
				PS-03-04-04	腫瘍マーカー、バイオマーカー、がん遺伝子パネル検査等、腫瘍に特化した検査とその所見について概要を理解している。				○	○																	○	○	○	
				PS-03-04-05	腫瘍の内視鏡検査・画像検査（エックス線、CT、MRI、PET・核医学、超音波等）の異常所見がわかり診断できる。					○																	○	○	○	
				PS-03-04-06	腫瘍の生検・細胞診や病理検査とその所見について概要を理解している。				○	○																	○	○	○	
				PS-03-04-07	腫瘍のTNM分類、ステージについて概要を理解している。				○	○																	○	○	○	
				PS-03-04-08	がんの症候について理解している(表2-19)。					○																	○	○	○	
				PS-03-04-09	主な造血器腫瘍の症候、診断、治療について理解している。				○	○																	△		○	
				PS-03-04-10	主な脳腫瘍の症候、診断、治療について理解している。				○																	△		△		
				PS-03-04-11	主な皮膚腫瘍の症候、診断、治療について概要を理解している。				○	○																△		○		
				PS-03-04-12	主な骨軟部腫瘍の症候、診断、治療について概要を理解している。				○	○																○	○	△		
				PS-03-04-13	主な胸部腫瘍（呼吸器系）の症候、診断、治療について概要を理解している。				○	○																○	○	△		

第1層 -話	第2層 -説明	第3層 -話	第4層 -話	第4層 -話	すにへ実秋 る身講習田 項に義等大 目つやを學 け実進医 も等て部 らを離全 う進成体 べじすで くてる講 章学項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	目つやを離 け実進床 て習じ系 も等て部 らを離講 う進成体 べじすで くてる講 章学項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	目つやを離 け実進床 て習じ系 も等て部 らを離講 う進成体 べじすで くてる講 章学項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	形態解 析、器官構 造学	細胞生物 学	分子病 態・腫瘍 病態学	器官病 態学	細胞生 理学	分子機 能・代謝 機能学	微生物 学	分子生 化学	衛生・公衆衛 生学	生 体防 御学	法 医学	医 学教育	循 環器内 科学	神 経外 科学	消 化器外 科学	胸 部外 科学	心 臓血管外 科学	脳 神經外 科学	皮 膚科・形 成外 科学	腎 泌尿器 科学	小 兒科 学	産 婦人 科学	眼 科 学	耳 鼻咽喉 ・頭頸部外 科学	麻 醉・蘇 生・疼痛 管理学	放 射線 医学	総 合診療 ・検査 診断学	救 急・集中 治療医学	代 謝・内 分泌内 科学	小 兒外 科 学	臨 床睡 癪学	医 療情報 学	呼 吸器内 科 学	歯 科口腔 外科学	輸 血部	リハ ビリテー ーション 部	病 理部	薬 物動 態学	医 疗安 全管 理部	感 染制 御部
患者 ケア の ため の 診 療 技 能	患者の苦痛や不安感に配慮し、確実で信頼される診療技能を磨き、医療の質と患者安全を踏まえた診療を実践する。	得られた全ての情報から分析し、必要な医療について評価した上で提供すべき医療を計画できる。	治療(計画、経過の評価)	CS-02-04-09 薬物の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存の概要を理解している。		○		○																					△		○																
				CS-02-04-10 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している。		○		○																					○	○		○															
				CS-02-04-11 抗微生物薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している。		○		○																				○	○		○	○	○														
				CS-02-04-12 オピオイド鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項について理解している。		○		○																			○	○		○	○	○															
				CS-02-04-13 分子標的薬・バイオ医薬の薬理作用と有害事象の概要を理解している。			○	○																			○	○		○	○	○															
				CS-02-04-14 漢方医学の特徴、主な和漢薬(漢方薬)の適応、薬理作用について概要を理解している。				△																		○	○		△	○	○																
				CS-02-04-15 主な放射線治療法の適応の概要を理解している。																							○			○																	
				CS-02-04-16 インターベンショナルラジオロジーについて概要を理解している。																							○	○																			
				CS-02-04-17 内視鏡を用いる治療の概要を理解している。																							○			△																	
				CS-02-04-18 超音波を用いる治療の概要を理解している。																							○	○		○		△															
				CS-02-04-19 被覆材の種類と適応、効果について理解している。																							○	○																			
				CS-02-04-20 外科的治療の適応と合併症について理解している。																							○	○		○	○																
				CS-02-04-21 手術の危険因子とその対応の基本について理解している。																							○																				
				CS-02-04-22 主な術後合併症とその予防の基本について理解している。																							○			○																	
				CS-02-04-23 手術および侵襲的処置に関するインフォームド・コンセントの注意点について理解している。																							○			○																	
				CS-02-04-24 周術期における事前のリスク評価について理解している。																							○	○		△																	
				CS-02-04-25 周術期における主な薬剤の服薬管理(継続、中止等)の必要性とそれに伴うリスクについて理解している。																							○			△																	
				CS-02-04-26 周術期における輸液・輸血について理解している。																							○			○																	
				CS-02-04-27 周術期における疼痛の管理について理解している。																							○			○																	
				CS-02-04-28 局所麻酔、末梢神経ブロック、神経叢ブロック、脊髄もく膜下麻酔、硬膜外麻酔の適応、禁忌と合併症について概要を理解している。																							○	○																			
				CS-02-04-29 麻酔管理を安全に行うための術前評価について概要を理解している。																							○			△																	
				CS-02-04-30 安全な麻酔のためのモニタリングの方法、重要な異常所見と対処法について概要を理解している。																							○																				
				CS-02-04-31 麻酔薬と筋弛緩薬の種類と使用上の原則について理解している。												○											○			△																	
				CS-02-04-32 吸入麻酔と静脈麻酔の適応、禁忌、方法、事故と合併症について理解している。												○											○			○																	
				CS-02-04-33 気管挿管を含む各種の気道確保法を理解している。																							○			○		△															
				CS-02-04-34 栄養アセスメント、栄養ケア・マネジメント、栄養サポートチーム、疾患別の栄養療法について理解している。																							○	○		○	○	△															
				CS-02-04-35 経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法と合併症、長期投与時の注意事項について理解している。																							○	○		○	○																
				CS-02-04-36 主な医療機器の種類と原理について概要を理解している。																							○																				
				CS-02-04-37 主な人工臓器の種類と原理について概要を理解している。																							○	○		○																	
				CS-02-04-38 血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応について理解している。																							○	○		○	○	○															
				CS-02-04-39 輸血副反応、輸血使用記録保管義務、不適合輸血の防止手順について理解している。																							○	○		○	○	○															

第1層 - 説明	第2層 - 説明	第3層 - 説明	第4層 - 説明	第4層 - 説明	すにへ実秋 る身講習田 項目に義等大 目つやを学 け実過医 て習じ学 も等て都 らを體全 う達成体 べじすで くてる講 意学項目 難生目・ すにへ実 る身講習 項目に義等	目つやを基 づけ実過確 系も等ての らを體講 う達成座 べじすで くてる講 意学項目 難生目・ すにへ実 る身講習 項目に義等	形態解 析・器官構 造学	細胞生物 学	分子病 理・腫瘍病 理学	器官病 理学	情報制 御・実験治 療学	細胞生理 学	分子生化 学	微生物学	衛生・公衆衛 生学	生体防 御学	法医学	医学教育 学	循環器内 科学	血液・腎 臓血管外 科学	消化器外 科学	心臓血管外 科学	皮膚科・形 成外科学	小児科 学	産婦人科 学	眼科学	耳鼻咽喉・頭 頸部外科学	麻酔・蘇生・ 疼痛管理 学	放射線医 学	総合診療・ 検査診断 学	救急・集中 治療医学	代謝・内 分泌内 科学	小兒外 科学	臨床腫瘍 学	呼吸器内 科学	医療情報 学	歯科口腔外 科学	輸血部	リハビリテー ーション部	病 理部	薬物動態 学	医療安 全管理部	感染制御 部
社会における医療の役割の理解	疫学・医学統計	人間集団を対象とする研究法である疫学の考え方と意義、主な研究デザインを学ぶ。医学、生物学における統計手法の基本的な考え方を理解する。	保健統計	SO-02-01-01	主な人口統計（人口静態と人口動態）、疾病・障害の分類・統計（ICD等）を理解している。										○															△													
				SO-02-01-02	平均寿命、健康寿命について説明できる。										○												○	○	○	○	○												
				SO-02-02-01	公衆衛生と臨床の視点から見た疫学の役割を理解している。										○															△													
				SO-02-02-02	割合・比・率の違い及び代表的な疫学指標（有病割合、リスク比、罹患率等）を理解している。										○															△													
				SO-02-02-03	主なバイアスや交絡を例示できる。										○														○	△													
				SO-02-02-04	年齢調整における直接法と間接法の違いを説明できる。										○														△														
				SO-02-02-05	主な疫学の研究デザインとして、観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）及び介入研究（ランダム化比較試験等）を理解している。									○														○	○														
			疫学	SO-02-02-06	急性感染症に特異的な疫学的アプローチを理解している。										○													○					○										
				SO-02-02-07	エピデンスの限界を踏まえながら、集団に影響する意思決定を支援できる。										○													○	○														
				SO-02-03-01	尺度（間隔、比、順序、名義）について説明できる。										○														△														
				SO-02-03-02	データの分布（欠損値を含む）について説明できる。										○													△															
				SO-02-03-03	正規分布の母平均の信頼区間にについて説明できる。										○													○	△														
			データ解析と統計手法	SO-02-03-04	相関分析、平均値と割合の検定等を実施できる。										○													○															
				SO-02-03-05	多変量解析の意義を理解している。										○													○															
				SO-03-01-01	植物状態、脳死、心臓死及び脳死判定について理解している。										○																												
				SO-03-01-02	異状死・異状死体の取扱いと死体検案について理解している。										○																			○									
				SO-03-01-03	死亡診断書と死体検案書を作成できる。										○													△					○										
			死と法	SO-03-01-04	個人識別の方法を理解している。										○													○															
				SO-03-01-05	病理解剖、法医解剖（司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法解剖、承諾解剖）について理解している。										○	○												△				○											
				SO-04-01-01	健康寿命を延ばすために働きかけを行うことができる。										○													○	○	○													
				SO-04-01-02	バリアフリー等の障害と社会環境に関する概念を理解した行動をとることができる。										○													○	△														
				SO-04-02-01	女性やLGBTQIに対する差別等のジェンダー不平等をなくすために積極的な行動をとることができる。										○													○	○														
			社会の構造や変化から捉える医療	SO-04-03-01	気候変動と医療との関係性を理解し、患者が抱える健康に関する課題と気候変動との関係を想像できる。										○																												
				SO-04-03-02	自然災害（新興感染症を含む）が起きた際に必要とされる医師の役割を理解している。										○																				○								
			哲學と医療	SO-04-04-01	近現代思想・哲學の語彙の概要を理解している。										○																												
				SO-04-05-01	医学・医療の歴史的変遷を踏まえ現代の医学的問題を相対化できる。										○																			○									
			医療経済	SO-04-06-01	経済が医療に与える影響について理解している。										○																			○	○	△							
				SO-04-07-01	医療資源を公平に分配するとはどういうことか考え、自らの意見を述べることができる。										○																				△								

第1層 -話	第2層 -説明	第3層 -話	第4層 -話	第4層 -話	すにへ実秋 る身講習田 間に義等大 目つやを學 け英進医 も等て部 らを離全休 う通成休 べじすで くる講 意學項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	目つやを基 づけ実通床 て習じ系 も等ての らを離講 う通成休 べじすで くる講 意學項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	目つやを離 て習じ系 も等ての らを離講 う通成休 べじすで くる講 意學項義 難生目・ すにへ実 る身講習 項に義等	形態解 析・器官構 造学	細胞生物 学	分子病 態・腫瘍 病態学	器官病 態学	分子機能 ・代謝機能 学	分子生化 学	微生物 学	衛生・公衆衛 生学	生体防 御学	法医学	医学教育 学	循環器内 科	血液・腎臓 ・膠原病 内科学	精神科 学	消化器外 科	胸・部外 科	神經內科 学	心臓血管 外科学	脳神經外 科	整形外 科	皮膚科・形 成外科学	腎泌尿器 科	小兒科 学	産婦人科 学	眼科学	耳鼻咽喉 ・頭頸部外 科	麻酔・蘇生 ・疼痛管理 学	放射線 医学	総合診療 ・検査診断 学	救急・集中 治療医学	代謝・内 分泌内科 学	リハビリテー ーション部	病理部	薬物動態 学	医療安全 管理部	感染制御 部
社会における医療の役割の理解	社会的・文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人びとの言動・関係性を理解し、社会科学（主に医療人類学・医療社会学）の視点・理論・方法から、それを臨床実践に活用することができる。	国内外の視点から捉える医療	国内及び国際社会の中で規定される医療の役割と医療体制について概要を理解している。	SO-05-01-01	医師法が定める医師の職権と義務を理解している。				○				○			△										○	○	△															
				SO-05-01-02	医療職を規定する法律・制度を説明できる。				○				○			○										○		△															
				SO-05-01-03	医療法が定める医療施設の種類と機能について概要を理解している。				○				○			○											○		○														
				SO-05-01-04	医療計画について概要を理解している。				○				○			○			△								○	○															
				SO-05-01-05	地域医療提供体制に関する諸課題の相互関連性の概要を理解している。				○				○			○			△								○	○	○		○												
				SO-05-01-06	医療提供体制と医師の働き方について自身の考えを述べることができる。				○				○			○			△								○	○	○														
		グローバルヘルスの役割や医療体制	国際的に取り組む必要のある医療・健康課題について、歴史・社会的背景を踏まえて、概要を理解している。	SO-05-02-01	国際的に取り組む必要のある医療・健康課題について、歴史・社会的背景を踏まえて、概要を理解している。				○				○			○			△											△													
				SO-05-02-02	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの意義を理解し、世界各国の医療制度が抱える問題を例示できる。				○				○			○			△										△														
				SO-05-02-03	保健関連の国連開発目標や国際機関・国際協力に関わる組織・団体について概要を理解している。				○				○			○			△									△															
		社会科学と医療との関係	日常生活や外来診療・在宅療養・入院・施設入所等において、健康・病気・死の捉え方を探索できる。	SO-06-01-01	日常生活や外来診療・在宅療養・入院・施設入所等において、健康・病気・死の捉え方を探索できる。				○				○			○			△								○	○															
				SO-06-01-02	時代の流れ、社会の状況や諸制度との関わりのなかで医療に関する諸事象を捉え、構造的に説明できる。				○				○			○			△								○																
				SO-06-01-03	個や集団に及ぼす文化・慣習による影響（コミュニケーションの在り方等）を理解している。				○				○			○			○								○	○															

(参考) 秋田大学医学部附属病院 初期臨床研修到達目標

令和7年度版

1. 到達目標

- 1) 当院の臨床研修における到着目標を次のとおりとする。
 - ①医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）
 - ②医師としての使命の遂行に必要な資質・能力
 - ③基本的診療業務ができるレベルの資質・能力
- 2) 当院の臨床研修医（以下、研修医）は、医師として、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。また、医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

2. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

- 1) 社会的使命と公衆衛生への寄与
社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
- 2) 利他的な態度
患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。
- 3) 人間性の尊重
患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
- 4) 自らを高める姿勢
自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

3. 資質・能力

- 1) 医学・医療における倫理性
診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。
 - ①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
 - ②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
 - ③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
 - ④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
 - ⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。
- 2) 医学知識と問題対応能力
最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。
 - ①頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
 - ②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質

に配慮した臨床判断を行う。

③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3) 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

②患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。

③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4) コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5) チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

②チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6) 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。

②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。

③医療事故等の予防と事後の対応を行う。

④医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7) 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

①保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。

③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。

④予防医療・保健・健康増進に努める。

⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8) 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

①医療上の疑問点を研究課題に変換する。

②科学的研究方法を理解し、活用する。

③臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

②同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。

③国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

4. 基本的診療業務

研修を終えた後は、コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1) 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2) 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3) 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急救度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4) 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

医師としての人格を涵養し、将来どのような分野に進むにせよ、医学・医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、日常診療において頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身に付けることを目標とする。

2025年

	日	月	火	水	木	金	土
4	*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30				

5	*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

6	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30						

7	*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

8	*	*	*	*	*	1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

9	*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30					

10	日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

11	*	*	*	*	*	*	1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30							

12	*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

2026年							
1	*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

2	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	

3	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

2026年

	日	月	火	水	木	金	土
4	*	*	*	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30			

5	*	*	*	*	*	1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

6	*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30					

7	*	*	*	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30	31		

8	*	*	*	*	*	*	1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

9	*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30				

10	*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

11	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30						

12	*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

1	*	*	*	*	*	1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

2	*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28							

3	*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

目 次

秋田大学の基本理念・基本的目標・教育目標
秋田大学医学部の理念・目標
ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシー
医学部のカリキュラムについて

◎ 1年次

時 間 割 表 1
授 業 科 目 名	
細胞の構成と機能 I 3
生体物質の代謝 I 5
細胞の構成と機能 II 8
生体物質の代謝 II 13
人体解剖学入門, 骨学実習 17
個体の発生 23
個体・細胞の分子生化学 27
生体分子解析学実習 30
医療行動科学 32

◎ 2年次

時 間 割 表 38
基礎医学アドバンストコース日程表 39

授 業 科 目 名

個体の構成, 人体解剖学実習 40
組織学, 組織学実習 62
臓器の機能 I 67
臓器の機能 II 76
生体と微生物 80
免疫と生体防御 84
生体と薬物 87
生体と放射線・電磁波・超音波 92
原因と病態, 病理学実習 94
生体機能学実習 102
感染症・生体防御学実習 104
環境と健康 107
医の倫理と原則 110
地域医療・コミュニケーションとチーム医療 113

基礎医学アドバンストコース	116
細胞生物学	118
衛生学・公衆衛生学	121
生体防御学	123
医学教育学 I	125
器官・統合生理学	129
微生物学	131
細胞生理学	133
病理学 I	135
病理学 II	138
分子機能学・代謝機能学	140
形態解析学・器官構造学	144
医療情報学	147
情報制御学・実験治療学	149
医学教育学 II	151
分子生化学	

◎ 3年次

時間割表	153
授業科目名	
循環器	154
呼吸器	165
研究配属	171
加齢と老化、内分泌・栄養・代謝	173
消化器	177
社会医学	
疫学と予防医学	185
生活習慣病と臨床研究	188
保健と福祉の制度	192
社会医学実習	195
運動器	198
神経	209
耳鼻・咽喉・口腔	222
リハビリテーション	227
血液・造血器・リンパ	235
腎	239
免疫・アレルギー疾患・膠原病	242
妊娠と分娩	245
成長と発達	249
尿路・男性生殖器	254
放射線診断と治療	257
乳房	261
女性生殖器	263
感染症・感染制御	266
腫瘍	268

◎ 4 年 次

時 間 割 表	272
臨床医学アドバンストコース日程表	273

授 業 科 目 名

皮膚	274
眼・視覚	280
麻酔	288
薬物治療の基本原理	292
外科治療と周術期管理	296
救急疾患、物理・化学的因子による疾患	300
基本的診療技能	306
総合診療・臨床検査	312
精神	315
診療情報	323
医療における安全性確保	327
人の死・死と法	331

臨床医学アドバンストコース

整形外科学	335
リハビリテーション	344
歯科口腔外科学	348
心臓血管外科学	351
救急・集中治療医学	354
消化器外科学・消化器内科学・腫瘍内科学・放射線科学・食道外科学	356
眼科学	360
放射線医学	363
胸部外科学 I	365
代謝・内分泌内科学	367
小児科学	369
精神科学	372
産婦人科学	376
脳神経外科学	378
腎泌尿器科学	380
胸部外科学 II	382
皮膚科学・形成外科学	384
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	386
小児外科学	389
総合診療・検査診断学	393
麻酔・蘇生・疼痛管理学	395
血液・腎臓・膠原病内科学	398
循環器内科学	400
呼吸器内科学	402
臨床腫瘍学	404

◎ 4 年次 臨床 実習 各科 等 の 日 程 及 び 内 容

臨床実習 (CC1) 計画表	408
消化器内科学 (第一内科)	409
神経内科学 (第一内科)	412
循環器内科学 (第二内科)	416
呼吸器内科学	420
血液・腎臓・膠原病内科学 (第三内科)	424
精神科学	427
消化器外科学 (第一外科)	431
胸部外科学 (第二外科)	434
心臓血管外科学	436
脳神経外科学	438
整形外科学／リハビリテーション科	440
皮膚科学・形成外科学	445
腎泌尿器科学	447
小児科学	452
産婦人科学	455
眼科学	457
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	459
麻酔・蘇生・疼痛管理学	461
放射線医学	464
救急・集中治療医学	466
総合診療・検査診断学	469
代謝・内分泌内科学	472
小児外科学	475
病理	479
臨床腫瘍学	482
薬剤学	486
医療情報学	488
歯科口腔外科学	490
輸血学	492
医学医療総合講義 I	495

◎ 5年次臨床実習各科等の日程及び内容

時間割表	499
臨床実習(CC1) 計画表	500
消化器内科学(第一内科)	501
神経内科学(第一内科)	504
循環器内科学(第二内科)	508
呼吸器内科学	512
血液・腎臓・膠原病内科学(第三内科)	516
精神科学	519
消化器外科学(第一外科)	523
胸部外科学(第二外科)	526
心臓血管外科学	528
脳神経外科学	531
整形外科学／リハビリテーション科	533
皮膚科学・形成外科学	538
腎泌尿器科学	540
小児科学	545
産婦人科学	548
眼科学	550
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	552
麻酔・蘇生・疼痛管理学	554
放射線医学	557
救急・集中治療医学	559
総合診療・検査診断学	562
代謝・内分泌内科学	565
小児外科学	568
病理	572
臨床腫瘍学	575
薬剤学	579
医療情報学	581
歯科口腔外科学	583
輸血学	585
医学医療総合講義II	588

◎ 5年次 臨床実習各科等の日程及び内容

(CC2)

法医学	592
消化器内科学（第一内科）	597
神経内科学（第一内科）	601
循環器内科学（第二内科）	606
呼吸器内科学	609
血液・腎臓・膠原病内科学（第三内科）	613
精神科学	616
消化器外科学（第一外科）	620
胸部外科学（第二外科）	623
心臓血管外科学	625
脳神経外科学	629
整形外科学・リハビリテーション科	632
皮膚科学・形成外科学	636
腎泌尿器科学	639
小児科学	644
産婦人科学	648
眼科学	650
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	652
麻酔・蘇生・疼痛管理学	655
放射線医学	659
総合診療・検査診断学	663
救急・集中治療医学	667
代謝・内分泌内科学	670
小児外科学	674
病理	679
臨床腫瘍学	683
地域医療	688
秋田県研修病院実習	691

◎ 6年次 臨床実習各科等の日程及び内容	694
時間割表	
(CC2)	
法医学	695
消化器内科学（第一内科）	700
神経内科学（第一内科）	704
循環器内科学（第二内科）	709
呼吸器内科学	712
血液・腎臓・膠原病内科学（第三内科）	716
精神科学	719
消化器外科学（第一外科）	723
胸部外科学（第二外科）	726
心臓血管外科学	728
脳神経外科学	732
整形外科学・リハビリテーション科	735
皮膚科学・形成外科学	739
腎泌尿器科学	742
小児科学	747
産婦人科学	751
眼科学	753
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	755
麻酔・蘇生・疼痛管理学	758
放射線医学	762
総合診療・検査診断学	766
救急・集中治療医学	770
代謝・内分泌内科学	773
小児外科学	777
病理	782
臨床腫瘍学	786
地域医療	791

◎教務関係等	794
◎専門教育科目履修基準	797
◎秋田大学医学部医学科における授業の欠席取扱い申し合わせ	799
◎秋田大学医学部医学科試験に関する内規	801
◎秋田大学医学部医学科授業等の評価に関する内規	804
◎講義室設備状況	805